

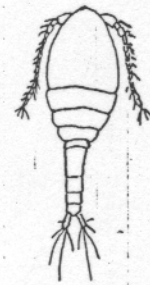
多い 動物プランクトン

動物プランクトンは、魚の稚魚の餌として、またワカサギ、シラウオやイサザなどの餌として大変重要なものです。

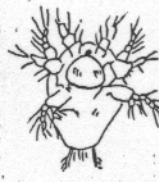
動物プランクトンにも色々な種類があって、霞ヶ浦北浦では、アス8種類程度います。

季節によって、優占する種類が異なりますが、今、多くみられるのは、ケンミジンコとヤマトムシ(幼生)、そしてワムシ

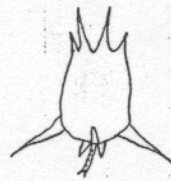
です。特に、ケンミジンコの幼生が多くいます。



ケンミジンコ



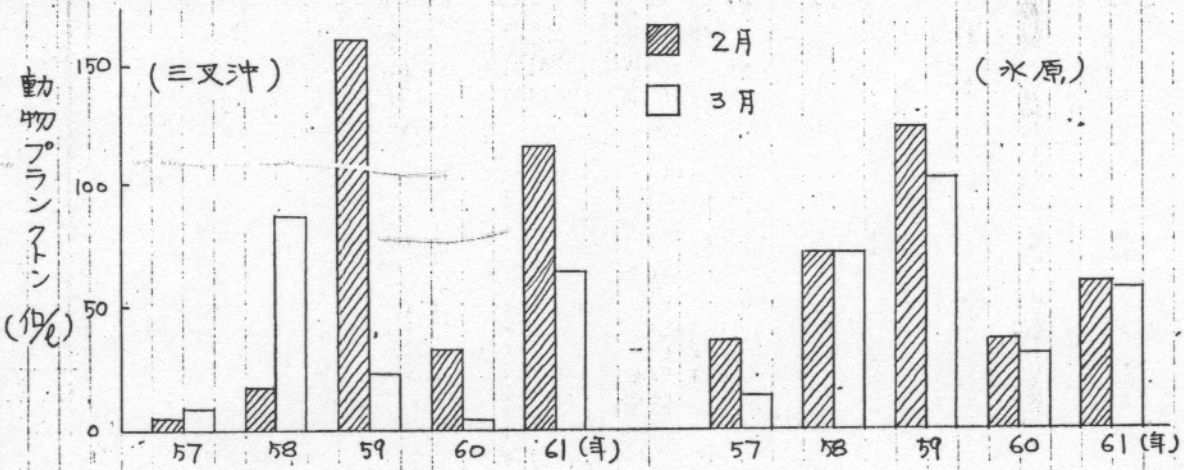
ケンミジンコ
の幼生



ツボワムシ

右の図は、これらの動物プランクトンを模式的に描いたものです。

下に示した図は、過去5年間の2月と3月の動物プランクトンの量を、霞ヶ浦(三叉沖)と北浦(水



茨内水試図

原)に令けて、年別に比較したものです。

昨年に比べると、今年2月の量は多いようです。特に、霞ヶ浦では目立っており、59年に次いで多くなっています。

3月から4月にかけては、ワカサギやシラウオが、化する時期で、ワムシやケンミジンコの幼生が稚魚期の餌となります。

従って、3・4・5月にこれらの動物プランクトンが多いという事は、ワカサギやシラウオにとっては大変好都合である、ということになります。